

個々の発達を促す、「語る」「語らせる」「語り合わせる」

子供たちが将来自立して生きていけるよう自分の生き方を見つめ、主体的に考えられるよう、個々の発達を踏まえて働きかけるには、どのようにすればよいのでしょうか。

具体的には

先生方が
語る

子供に
語らせる

子供たちに
語り合わせる

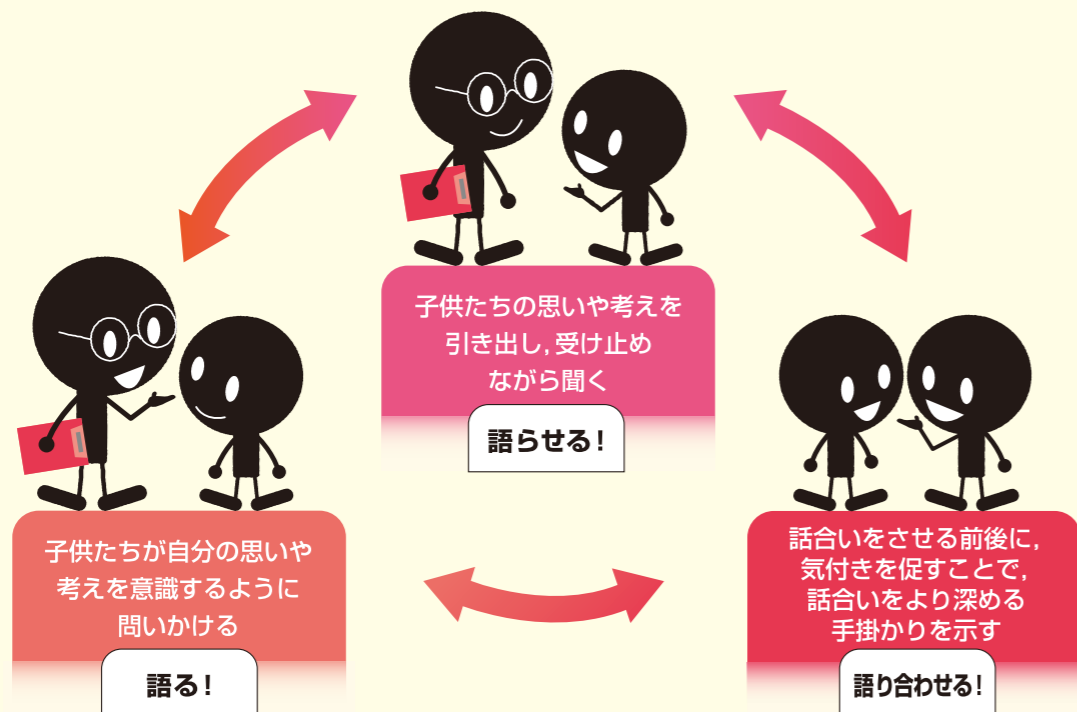
先生方が「語る」ことは、子供たちにとって自分の生き方を考える上で、重要です。だからこそ、伝える内容と伝え方の双方に気を付ける必要があります。

「あなたは どうして そう思うの かな？」というように、子供たちの思いや考えを引き出すよう、意図して働きかけることが大切です。

子供に「語らせる」ことは、まだ言葉や文章にしていない自分の思いや考えに気付くきっかけになります。ですから、子供に「語らせる」ときは、耳を傾けて受け止めるよう心掛けることが大切です。

子供たちに「語り合わせる」ことは、他者の思いや考え方を知るとともに、自分自身の思いや考え方を明確にしたり、整理・再構築したりすることにつながります。意図的に、自他の違いに気付き、それを受け入れるよう促していくことが大切です。

「語る」「語らせる」「語り合わせる」と、このようなやりとりに変わります。



— 「語る」「語らせる」「語り合わせる」ときに大切なこと —

「語る」「語らせる」「語り合わせる」ことは、決して単なる会話や対話ではありません。ましてや、指示的に話しかけたり、思いや考えを押し付けたりすることでもありません。

先生方が一方的に指示した場合、若しくは意図もなく子供たちに話し合いをさせた場合であっても、一時的になら子供たちに変容が見られるかもしれませんが、それは成長・発達につながるとは限りません。

大切なのは、子供たちが自ら気付くことを促し、主体的に考えさせ、それを成長・発達へとつなげていくことです。 また、どの場面であっても、相手と自分の双方を尊重する、あるいは相手を傷つせず、自分のことも犠牲にしないようにすることが重要です。

子供たちがもっている潜在的な力を引き出すことにもなるんだね。



× 日々接する中で、こんな対話をしていませんか？



次ページからは、「語る」「語らせる」「語り合わせる」をより理解するために、事例に則して解説します。